

2. ババチビドロムシ *Babalimnichus masamii* M. Satô, 1994

[銚子市] 3exs., 犬吠埼, 18. VIII. 2009, 菅谷採集; 9exs. (幼虫), 同, 19. X. 2009, 小野採集.

[南房総市] 1ex. (他, 複数個体観察), 白浜町野島崎, 15. VI. 2007, 小野採集; 12exs., 白浜町塩浦, 18-19. VII. 2009, 亀澤採集.

[館山市] 1ex. (幼虫), 伊戸, 15.IV. 2008; 5exs. (幼虫), 洲崎, 14. I. 2012; 2exs. (幼虫), 同, 16. I. 2012, いずれも小野採集.

本種は Satô (1994) により記載された, チビドロムシ科に属する体長 2 mm ほどの海岸性甲虫である (図 2). 国内では, 南西諸島を中心に本州および四国まで広く分布しており (Yoshitomi, 1998; Yoshitomi & Satô, 2001; 吉富・新井, 2004; 中島, 2005; 藤谷, 2006; 山地, 2006; 河上・林, 2007; 藤原, 2009; 吉富, 2011), 最近では, 新たに神奈川県三浦半島からも記録された (浅野ほか, 2012, 印刷中).

千葉県における観察では, クロコブセスジダルマガムシと同所的に得られることもあるが, 特に本種の成虫は潮上帯を好む傾向があり, 波の影響をあまり受けない岩の窪みに静止していることが多かった. また, 刺激を受けると勢いよく跳躍し, 時に飛翔もして逃げる姿が観察された. 一方, 幼虫は潮上帯岩礁において, 岩の割れ目に溜まった泥土の中に生息していた. 多くは幼虫の状態越冬するようで, そのような泥土中に楕円球状の部屋を作り, 休眠している姿がみられた (図 3). 幼虫の同定にあたっては, Yoshitomi & Satô (2001) を参照した.

なお, 銚子市犬吠埼の産地は現在のところ, 本種の分布の北限および東限にあたる.

末筆ながら, 本稿を草するにあたり, 種々ご教示を下された吉富博之博士 (愛媛大学ミュージアム) に厚く御礼申し上げる.

引用文献

- 浅野 真・川島逸郎・小野広樹, 2012. 三浦半島の海浜における昆虫類の記録, 第 1 報. 神奈川自然誌資料, 印刷中.
 藤谷美文, 2006. ババチビドロムシの採集記録. 山口のむし, (5): 46-47.
 藤原淳一, 2009. 長崎県におけるババチビドロムシの記録. 甲虫ニュース, (168): 3.
 河上康子・林 成多, 2007. 日本海沿岸の海岸性甲虫類の研究 (2) 島根半島. ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 37-76.
 中島 淳, 2005. ババチビドロムシの九州 (宮崎県) からの採集記録. 甲虫ニュース, (151): 17-18.
 生川展行・岡由佳理, 2006. クロコブセスジダルマガムシの

三重県での記録. ひらくら, 50 (4): 62-63.

- Satô, M., 1963. A new inter-tidal species of the genus *Ochthebius* Leach from Japan (Coleoptera: Hydraenidae). Transactions of the Shikoku Entomological Society, Matsuyama, 7 (4): 129-132.
 Satô, M., 1994. Note on the genus *Pseudeucinetus* Heller and its new relative (Coleoptera, Limnichidae). Special Bulletin of the Essa Entomological Society, Niigata, (2): 173-177.
 山地 治, 2006. 岡山県でババチビドロムシを採集. 月刊むし, (430): 19.
 Yoshitomi, H., 1998. A new record of *Babalimnichus masamii* (Coleoptera, Limnichidae) from Yakushima Island. Elytra, Tokyo, 26(1): 160.
 吉富博之, 2003. 日本産ダルマガムシ科. 昆虫と自然, 38(2): 23-26.
 吉富博之, 2011. ババチビドロムシの四国からの採集記録. さやばねニューシリーズ, (3): 22.
 吉富博之・新井浩二, 2004. ババチビドロムシの与那国島からの採集記録. 甲虫ニュース, (148): 23.
 Yoshitomi, H., & M. Satô, 2001. Description of the larva of *Babalimnichus masamii* M. Satô (Coleoptera: Limnichidae, Thaumastodinae). Coleopterists Bulletin, 55 (4): 471-474.

(小野広樹 276-0046 八千代市大和田新田 1075-116 街家式番館 204)

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

(菅谷和希 790-8566 松山市樽味 3-5-7 愛媛大学農学部環境昆虫学研究室)

【短報】佐渡島で外来種キボシカミキリの発生を確認

日本では, 中国あるいは台湾からの外来生物と考えられているキボシカミキリ名義タイプ亜種 *Psacotha hilaris hilaris* (Pascoe) を, 新潟県佐渡島で採集しているので報告しておく. これまで同地からは記録されていなかったと思われる.

4♂♂, 4♀♀, 小佐渡羽茂村山, 28. V. 2011 イチジク材採取, 28. VII ~ 26. IX. 2011 脱出 (神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵).

道路脇に本種にひどく加害された 2 本の植栽されたイチジクを認め, 持ち帰った 1 本の枝から脱出した. これらは前胸背両側の黄白~黄条が中央で前後に多少とも離れているもの (いわゆる関西型) が大部分であるが, 完全につながっているもの (いわゆる関東型) と中間的なものがそれぞれ 1 頭ずつ含まれる. 同時にこの材からは, クワカミキリ 1 頭も脱出した.

羽茂村山付近ではほかにイチジクを見かけなかったが, 小佐渡各地を車中から見た限りでは, ごく少数のイチジクを認めたものの本種に加害されている様子はなかった. このことと, 人目につ

きやすいカミキリであるにもかかわらず採集例を聞かなかったことも併せて考えれば、本種が佐渡島に侵入したのは比較的最近の可能性がある。

なお、同じ日本海上に浮かぶ粟島では本種はずでに記録されている（草刈広一，1998，月刊むし334：13-14）。

- （永幡嘉之 990-0057 山形市宮町 5-9-50）
 （鎌苅哲二 224-0001 横浜市都筑区中川 1-2，
 A-1405）
 （高桑正敏 250-0031 小田原市入生田 499
 神奈川県立生命の星・地球博物館）

【短報】北海道で得た日本未記録のケシキスイ

北海道で日本未記録のケシキスイを採集したのでここに報告する。同定は Sjöberg (1939), Kirejtshuk (1992) や画像などを参考に筆者がおこなったが、久松定智氏に確認をお願いした。厚く御礼申し上げる。

キタヒラタケシキスイ（和名新称）*Eपुरaea* (*Eपुरaea*) *rufobrunnea* Sjöberg, 1939

9exs., 北海道新得町トムラウシ温泉周辺, 25. VII. 2011, 筆者採集 (4exs. は久松保管, 他は筆者保管)。

体長 3.2-4.2 mm. フィンランドから記載された。黒褐色で、前胸背板および上翅の外縁、頭部、肢などは黄褐色。表面に長くて細い毛をそなえる。前胸背板は横長で、前方へ向けて強く狭まる。上翅は長く幅の約 1.5 倍、側縁はほぼ平行。全ての脛節外角に突起がある。

分布：北海道；ロシア，ヨーロッパ。

引用文献

- Kirejtshuk, A. G., 1992. Nitidulidae. 極東ロシア昆虫分類検索誌，第3巻甲虫目，第2分冊，pp.114-209. ナウカ出版，サンクトペテルブルグ。（露文）
- Sjöberg, O., 1939. Beitrag zur Kenntnis der Gattung *Eपुरaea* Er. (Col., Nitidulidae). Bestimmungstabelle der paläarktische Arten. Entomol. Tidskr., 60: 108-126.
 （平野幸彦 250-0865 小田原市蓮正寺 585-29）



図1. キタヒラタケシキスイ。

【短報】紫色のオオアオカミキリ

オオアオカミキリ *Chloridolum* (*Chloridolum*) *thaliodes* Bates, 1884 は、日本および朝鮮半島、中国東北部に広く分布する大型のアオカミキリで、通常の個体では、頭部と上翅は青緑色、前胸背板は青緑色から銅緑色、まれに紫色となる（新里，2007）。この色彩には、「日本海側のサワグルミをのみを食べる個体群のほうが青みが強く、太平洋側のオニグルミを食べる個体群には褐色を帯びる個体が目立つ」など、出現頻度や境界の不明瞭な変異があるという（永幡，2010）。

Bentanachs *et al.* (2011) は、日本（Kioto）から記載されているが長い間不明種として扱われていた *Aromia japonica* Podaný, 1968 が、実はオオアオカミキリの暗紫色の色彩変異個体であったことを、両種のタイプ標本を検討することによって明らかにした。オオアオカミキリの暗紫色の色彩変異は従来知られていなかったが、同論文には秋田勝己氏（私信）が、同様の紫色の変異個体を実見していることにも簡単に触れている。しかし、いずれにしても、紫色のオオアオカミキリは、*Aromia japonica* のホロタイプ標本以外に公に知られていない。

最近、官能健次氏のご厚意により、同氏が木曾御岳で採集された紫色のオオアオカミキリを実見することができた。全形の原色写真を図示して、記録を書きとめておく。

検視標本：オオアオカミキリ：1♂，岐阜県木曾御岳（日向～本巣），16-VII-1992，官能健次採集（新里標本保管）。

検視個体の色彩は次の通り。体背面は広く紫色で光沢が鈍く、頭部は頭盾や後頭が部分的に青緑色、上翅は縫合部周辺が背面から見たときにかすかに青みがかかる。体腹面は紫色の前胸腹板を除き暗青緑色で光沢は鈍い。触角と肢は黒色。

貴重な標本を検する機会を与えられた



図1. 紫色のオオアオカミキリ。